

**事業所における自己評価結果(公表)**

公表:令和 4年 4月 30日

事業所名 キッズ・レインボー

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境 ・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	92%	8%	市民プラザの広いスペースで思い切り身体活動ができる場を設けるなどの工夫をしています。	利用者が中学生になると、体格が大きくなるので、体育館などの施設利用を検討しています。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	専門職の配置を工夫しています。	より充実した支援のため、職員の配置数を高める努力を続けています。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	支援環境全体の、構造化と視覚支援に努めています。	生活空間を構造化し、わかりやすくするために手順書や視覚支援を活用し、絶えず改善に努めています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	全職員で清潔な環境づくりの維持に努めています。	幅広い年齢に応じるため、活動の種類、集団の大きさなどに応じた柔軟な場面設定に努めています。
業務 改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	42%	50%	毎日の実践の振り返りに力を注ぎ、改善に努めている。	できるだけ多くの職員が、参加できるよう努力しています。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	定期的にアンケートを実施し、保護者会で把握し、業務改善に活かしている	多くの意見が聞けるよう、気軽に言いやすい雰囲気づくりに気を配っています。
	7*	療育内容は新型コロナに対応した適切なものであったと思うか。	100%	0%	マスクの着用指導、手洗いうがいの徹底、三密を避けるなど最大限の工夫をしています。	加えて、歌う活動などを減らす、屋外での活動を多くするなどの工夫をしています。
	8*	コロナ対策全般についてのご意見。(自由記述)	42%	0%	学校園noが臨時休業になっても、児童デー等は利用可能となっているので、慎重な対応に努めています。	学校園の対策や、感染の情報・動向に絶えず気をつけて対応に努めています。
	9	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	83%	0%	学校・園によりコロナ罹患者の情報提供がことなるので、慎重な対応に努めています。	一つひとつ、確実に改善する努力をこれからも続けます。
	10	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	50%	42%	第三者評価を受けていないが、自己評価を通じて業務改善の努力をしています。	第三者評価の実施は、今後の課題として検討していきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	11	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	50%	0%	研修受講者から伝達講習を受けるなど、職員の資質向上に努めています。	他の事業所も参加する会議などの情報も共有することで、実践力を高める一助にしています。
	12	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	83%	0%	毎日の支援記録を共有しながら、具体的な行動をよりよく理解して、客観的に分析する力を持つようっています。	定期的に外部の専門機関の助言・指導をいただいている。
	13	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	42%	50%	標準化したアセスメントツールは使用できていませんが、検査機関等の情報提供を受け、支援計画に活用している。	幼児教育、発達障がい教育・福祉の経験者、公認心理士の職員からのアドバイスを、適応行動のアセスメントに活用しています。
	14	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	58%	42%	ガイドラインに示された3つの領域から、それぞれの具体的な内容を選択しています。	コロナ感染禍で、「地域支援」の領域の設定が困難となっています。
	15	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	83%	0%	共通理解と役割分担に基づき、計画・実践・評価を実施しています。	絵やカード、写真などは誰が担当しても統一支援ができますが、声かけでの統一支援が課題としています。会議などで報告しています。
	16	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	主担当者が意見を取りまとめて、意見を聞き、最終案を回覧などでも確認して、決定しています。	同じテーブルでの会議に時間的制約がある場合は、主担当者が意見などを聞きとり、プログラムに反映しています。
	17	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	同じプログラムでも、担当が変わり、展開に変化をつけるなどの工夫もしています。	学期や季節に応じた行事や、調理の内容を変えたり、新たな社会資源を開拓するなど、固定化しないようにしています。
	18	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	92%	0%	一人ひとりの特性を把握し、異年齢集団の良い面を活かすよう、絶えず意識して支援計画を展開しています。	一対一から、できる限り二人・三人の小集団、さらに数名の集団へと大きくし子ども同士の関りを深めるように配慮しています。
	19	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	83%	8%	毎日の朝礼と終礼を最大限活用しています。	勤務シフトの関係で重要事項の漏れがないよう、報告・連絡を確実に行う努力をしています。
	20	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	83%	8%	朝礼と共に終礼を大切にし、その日の支援を職員で共通認識することに努めています。	小さな気づきを共有し、積み上げる実践の基本を大切にしています。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	21	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	92%	0%	全職員あわせて記録をとることを重視し、意見交換などを通じて改善に努めている。	何よりも記録を大切にして、積み上げ、実践の検証と改善に努めています。
	22	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	92%	0%	特に期間にこだわらず、随時行い、見直しの必要性の有無を検討しています。	支援目標は、友だち関係、支援員との組み合わせなどにも配慮して、変更するかどうかを検討するようにしています。
	23	療育内容は新型コロナに対応した適切なものであったと思うか。	83%	0%	マスク、手洗い、うがい、三密を避けるなど、基本的対策を徹底して行っています。	お出かけや屋外での活動の機会が少なくなるので、屋内での活動で体幹を使う活動を多くするなどの配慮をしました。
	24	コロナ対策全般についてのご意見。(自由記述)	100%	0%	ご家庭からの感染情報を把握することに努めています。	学校園との連携を一層密にして、迅速な感染情報、学級閉鎖などの把握に努めています。
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者レ	25	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	75%	0%	主として、サービス管理責任者が参画しています。	臨機応変に他の職員も参加するように配慮しています。
	26	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	75%	0%	発達相談支援センターと絶えず連携・情報交換しています。	センターから利用者の紹介や問い合わせなどもあります。
	27	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0%	0%	該当者はありません	
	28	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0%	0%	該当者はありません	
	29	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	75%	0%	該当児の保育所と移行支援に関する情報交換を行う予定です。	進路に関する相談は、いつでも対応しています。
	30	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	75%	0%	該当児の進路先への情報提供はいつでも対応しています。	それぞれ年度末になり、なかなか十分な時間がとれません。
	31	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	75%	0%	定期的に来所して現場を観察していただき、指導助言をいただいている。	研修の機会にはできるだけ、職員を参加させるよう努めています。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
この連携	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	17%	67%	コロナ感染により、交流全体ができなくなっています。	お迎えの機会などもとらえて、それぞれの行事等の情報提供などにより、個別的に参加の機会が得られるよう努めています。
	33	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	75%	0%	機会がある時は、参加するように努力しています。	コロナ感染で、機会はほぼなくなっています。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	75%	0%	連絡ノートを中心に、電話、メール、ラインを活用しています。	子育てや家族支援に関わる内容への対応が多くなりました。
	35	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	75%	25%	コロナ感染禍で、面談も、家庭訪問することも控えて、専ら電話やメール、LINEを活用している。	心理士や家族支援プログラムの有資格者を中心に、個別的に対応し、保護者支援を一層進めたいと考えている。
保護者への説明責任等	36	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	83%	0%	何よりも利用当初に、丁寧に説明し、その後補足や再確認にも留意しています。	複数利用しているご家庭からの情報もいただき、改善に努めています。
	37	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	83%	0%	十分説明し意見交換を行った後、必要に応じて、ご両親で検討していただく時間をとることもあります。	少しでもご家庭が関心を持っていたくように努力する必要性を感じています。
保護者への説明責任等	38	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	83%	0%	定期的に問い合わせ、積極的にかかわるよう意識しています。	どこまで関われるか、それぞれのケースによって配慮が必要になります。
	39	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	50%	17%	バスツアー、スケート、クリスマス会など親の会行事の参加者の交流を深めています。	コロナ感染禍であり、交流行事の開会が極端に少なくなっている。
保護者へ	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	67%	0%	積極的に働きかけると共に、相談等があれば迅速に対応しています。	所長を中心に、公認心理士なども加わり、関係職員も入ってケース会議をもって対応しています。
	41	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	83%	17%	ホームページや、親の会の会報等を通じて、情報発信に努め、保護者との連携に役立っている。	門真市手をつなぐ親の会の一事業部としてHP、会報を通じて、発信しています。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
の説明責任等	42	個人情報の取扱いに十分注意している	67%	0%	個人情報保護条例に則り、取り扱いには格別注意しています。	学校園とも個人情報保護の観点で相互に情報を得ずらい課題があり、一事業所だけでの改善は困難です。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	67%	0%	事業所の性格からも当然のこととして十分配慮することに努めている	保護者からは、LINEでの連絡が多く、内容の確認のため電話をおかけして正しい情報を伝えています。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	17%	50%	コロナ感染禍で地域に開かれた運営が困難になった。	職員にできる限り地域住民を採用するように配慮している。
非常時等の対応	45	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	42%	58%	防災・防犯、発作、誤嚥、緊急蘇生法等のマニュアルを策定しているが、保護者にはコロナ禍で説明できない状況で、資料を配布して不安に感じる人のため周知していません。	マニュアルは策定し、テーマに応じて訓練等を実施しているが、その頻度を増やすことと周知徹底が課題である。
	46	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	42%	58%	市が指定する品場所への移動の訓練は実施している。	利用者が施設の周辺地域の理解を深めるため、近隣公園への屋外活動の機会に、目印となる施設等を説明している。
非常時等の対応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	83%	0%	初回面談時に聞き取り、毎年プロフィールの記入を更新し確認しています。投薬の変化がある時は、処方箋のコピーを取らせていただき気をつけています。	知らない間に投薬内容が変わっていることを、連絡いただけないご家庭が、たまにあるので定期的に通院のある人には、事業所から、検査や投薬内容をきかせていただくようになっています。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	83%	0%	検査結果をいただき職員に周知し、クッキングやおやつの時に、気をつけています。	今後もアレルギーに対する聞き取りを正しく行い、医師の指示書に従い間違いないように努めます。
	49	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	83%	17%	事例研究を行って再発防止に努め、ファイルを作成し、集積している。	絶えず健康安全と安心な環境づくりに最大の配慮をしている。
	50	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	75%	25%	順次研修を受講すると共に、伝達講習に努めている。	自己研修のための資料提供に努めている。
	51	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	83%	17%	いかなる場合にも虐待をしないことを徹底している。	いつも複数で支援にあたり、いかなる場合も身体拘束は行わない。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。